

歯医者さんと患者さんですすめる社会貢献活動

TOOTH

FAIRY



TOOTH
トウースフェアリー
FAIRY

Annual Report



2013

TOOTH FAIRY 活動報告書

CONTENTS

Project 1 p.8 難病の子どもと家族にやすらぎを チャレンジキッズプロジェクト



ウィッシュバケーション p.9 病気の子もやきょうだい パパママもイキイキ!! 1.夢の家族全員旅行 2.参加家族インタビュー



小児糖尿病 夢のキャンプ p.12 来年も来なくなる 勉強も遊びも友だちも 魅力いっぱいのキャンプ 香川県せとっ子の会スプリングキャンプレポート



合言葉は「友だちつくろう」 がんばれ共和国 p.14 年に一度の 難病児と家族のキャンプ 運営者インタビュー



日本初の 小児がん専門治療施設 チャイルド・ケモ・ ハウスが完成! p.15 子どもたちや家族からのメッセージ



公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を 代表理事 **大住カズ** × 公益財団法人 日本財団 会長 **笹川陽平** 対談 p.16 ひとりじゃないよ!を届けよう

Project 2 p.18 貧困地域に暮らす子どもたちに継続的な教育を スクールプロジェクト



日本の歯医者さんが ミャンマーへ! p.19 第2回ミャンマー 歯科ボランティアツアーレポート



- 支援者の皆様へご挨拶 p.3
- TOOTH FAIRYの歩んできた5年間 p.4
- 2013年度1年間の出来事 p.6
- 全国から届いた歯医者さんと患者さんへのありがとうの声 p.22

- TOOTH FAIRYを支えて下さった企業・団体の皆さま p.23
- 数字で見る TOOTH FAIRY p.24
- これからの TOOTH FAIRY p.26
- スタッフからのご挨拶 p.27

日本歯科医師会 会長 メッセージ

日本財団TOOTH FAIRYプロジェクトは、公益社団法人 日本歯科医師会の全面的な協力のもと、活動開始から5年を迎えました。

日本全国に5,600以上もの歯科医院とその患者様にご支援いただいております。これまでに寄せられた寄付は約7億4,000万円となりました。

5年という節目の年を迎えるにあたり、日本歯科医師会の久保満男会長より、メッセージをいただきました。

歯科医師によるもう一つの 社会貢献

TOOTH FAIRYと名付けられた歯科医師の社会貢献活動が、今年で5年を迎えることになりました。

しかし、「ものごと」が動き実績をあげるためには、常に「生みの準備」の時間を必要とします。今から7年程前に日本財団の笹川会長が、日本歯科医師会に私を訪ねてきていただいたのが、全ての始まりでした。

笹川会長は、ハンセン病の制圧等の世界が抱えてきた歴史的な難題の解決に尽力された日本財団の活動を淡々と語られました。私は、そのとてつもなく大きな業績を淡々と語る笹川会長の語り口に、逆に財団の自負を深く理解することができました。そのあと、今この時代における「社会貢献」の意義を説かれ、その方法として笹川会長が示されたのが、治療の必要上、撤去せざるを得なくなった金属冠（詰め物や被せたもの）を廃棄するのではなく、それを換金した資金で歯科医師・歯科医師会と日本財団の協力事業の可能性を、私に問われました。

私は、笹川会長と日本財団に大きな信頼を寄せ、即座に事業の実施を決断しました。ただ、全国の会員にこの事業の趣旨や方法、更に日本財団への理解を得るには、少し時間を頂くことを提示し、笹川会長もこれを了承されました。

私は、このような大きな事業を成功させるためには、組織の

決断が大切であることは言うまでもないことですが、しかしそれ以上に大切なことは、その決断に対する理解を得るための説得だと考えています。決断は瞬時に下せませんが、そこに多くの人が関わる以上、それを理解してもらうための説得という行為がなければ、事業の永続的な成功は決して実現できないからです。

われわれ歯科医師は、日常の歯科医療こそが、国民の健康を守る公的な社会貢献であると自負しています。しかし、歯科医療の提供以外にも、というよりそれとは違う場で、違う意味を持った社会貢献を、われわれは為すことができる。これがTOOTH FAIRYの大きな意義だと思います。

ミャンマーでの学校建設や小児がんの子ども達への支援等、これからも歯科医師・歯科医師会は、日本財団と共に、多くの患者さんの協力を得ながら、より良い社会をつくるために努力をまいります。



公益社団法人日本歯科医師会 会長 大久保満男

TOOTH FAIRYとは?

全国の歯医者さんと患者さんの協力により集められた金歯や銀歯を寄付金に換えて、子どもたちへ夢と笑顔をプレゼントする社会貢献プロジェクトです。実施する事業は寄付金による資金援助だけでなく、歯科医師がボランティアで口腔ケアを行っています。



TOOTH FAIRY 5th Anniversary

TOOTH FAIRYの歩んできた5年間



第1回金属換金
12,923,375円
が寄付金として
集まりました。

11月



スクールプロジェクト
ミャンマー学校
建設10校完成

12月



TOOTH FAIRY
Facebook スタート



チャレンジキッズプロジェ
クト始動

2月



TOOTH FAIRY
Facebook スタート

歯へ届ける
プロジェクト始動

5月



呉ブルーライオンズクラ
ブ例会にてTOOTH FAI
RY紹介

10月



第8回目 金属リ
サイクル開催
NHKやTBSなど、
多くのマスコミの
方に取材頂きました。

1月



POIC® (専門的口
腔感染症予防) 研究
会設立総会にて
講演

3月



チャイルド・ケモ・
ハウス地鎮祭

5月



チャイルド・ケモ・
ハウス地鎮祭

ラッフル(慈善福引)
キャンペーンスタート

12月



TOOTH FAI
RY 参加 歯科
医院 5,000 医
院 達成!

2月

チャイルド・
ケモ・ハウス
竣工式

3月

2009 2010 2011 2012 2013

6月
TOOTH FAIRY
プロジェクトスタート



当医院は、TOOTH FAIRYに参加しています。



2月
寄付金
1億6500万円達成!



3月
東日本大震災被災地の
参加歯科医院にお見舞
いキット送付



6月
チャイルド・ケモ・ハウス
キックオフイベント



日本歯科医師会
神奈川県歯科医師会
海のみえる森訪問



11月
海のみえる森
体験宿泊会



3月
ミャンマー歯科ボランテ
ィアツアー。熊本県歯科
医師会会長・浦田健二先
生、埼玉県歯科医師会副
会長、小谷田宏先生によ
る視察。



10月
九州歯科医学大会にて
ブース出展(熊本県)



2月 TOOTH FAIRY 参加歯科医院
掲載新聞広告



3月
第1回
ミャンマー
歯科ボランティ
アツアー
(以降公募型ツアー
として開催)



2009 2010 2011

TOOTH FAIRY 5th Anniversary

2013年度1年間の出来事

神奈川県横浜市青
葉区歯科医師会納
涼会ブース展示
8月3日



第12回金属換金寄付金合計
85,402,993円
7月31日



8月9~11日 難病児サマーキャンプ(がんばれ共和国)
開催、歯科口腔ケア実施(宮城県)



11月16日 ギビングサンクスパーティ開催



さんぽの会
(産業保健研究会)
にてプレゼン(東京都)
1月26日

海のみえる森第2
回チャリティノルデ
ィックウォーキング
大会
5月26日



日経ビジネス
(2013年10月
21日号)にTO
OTH FAIRY
記事掲載

10月21日



第13回金属換金寄付金合計
50,502,218円
12月3日

海のみえる森
プロジェクト一
時中断
1月



2月5~9日
第2回ミャンマー歯科
ボランティアツアー

2013

7月19日
第1回小児レスパイ
ト施設(子どもホスピ
ス)実践者会議



7~8月
小児糖尿病キャンプ全
国49か所で開催。和歌
山県、熊本県では歯科
口腔ケアを行いました。



8月25日
産業歯科保健研究会(東京都)

9月7~8日
和歌山県歯科医師会総会にてブ
ース展示



10月15日
■5500医院達成!
■月刊糖尿病ライ
フさかえ11月号
にTOOTH FAIRY
記事掲載



10月19日
チャイルド・ケモ・
ハウス書籍出版



11月21日
第3回小児レスパイ
ト施設(子どもホスピ
ス)実践者会議



12月1日
チャイルド・ケモ・ハウス
本格オープン



■金属寄付強化月間
■第2回ラッフル(慈善福引)
キャンペーンスタート

2月18日
第14回金属換金
寄付金合計
91,127,655円



3月末
全国主要新聞
にTOOTH FA
IRY参加歯科
医院名掲載



6月1日
チャイルド・ケモ・ハ
ウスチャリティーウ
ォーク2013



7月20~22日
ウィッシュ・パッケージ開始、2013年度は計3回開催
23家族計94名参加



10月17~18日
全国学校保健研究大会にて
ブース出展(熊本県)



11月9日
第61回 日本歯科大学
近畿地区校友会にてブ
ース出展(和歌山県)



3月16~18日
難病の子どもと家族の写真展!開催



難病の 子どもと 家族に やすらぎと 夢を



日本には難病の子どもが約20万人います。医療の進歩と共にこれまで助けることのできなかった命が助かるようになり、その数は年々増加傾向にあります。病院で治療を受け症状の緩和が見られると、在宅看護に移りますが、それは、自宅で過ごせる喜びと同時に、24時間365日の看護生活が始まる事を意味しています。難病や重い障害を抱える子どもは、体調の急変も多く、常に医療的ケアを必要とする

ため、支える家族は不安と緊張の中で過ごしています。

「パジャマを着て寝たことがない」
「家族旅行にいったことがない」

チャレンジキッズプロジェクトは難病の子どもとその家族が安心して生活できるような日常的な支援と、病院と家の往復になりがちな子どもたちやその家族に日常では味わえない体験や夢の家族旅行をプレゼントしています。

ウィッシュ・バケーション 夢の家族旅行へご招待

病気の子どもやきょうだい、 パパママもイキイキ!! 夢の家族全員旅行



ウィッシュ・バケーションとは

普段旅行に行けない難病の子どもとその家族にプレゼントされる夢の家族旅行です。難病の子どもの多くがミッキー・マウスに会いたいと言います。今回の行き先はその夢をかなえる、東京ディズニーランドと浅草観光。夢の旅に密着、ご家族の様子をレポートします。

花田さんファミリー
父・順一さん(41歳)
母・久美子さん(41歳)
キッズ・裕基くん(13歳)
※高校生のお兄ちゃんは
学校のため欠席

高場さんファミリー
父・秀樹さん(46歳)
母・愛さん(30歳)
キッズ・宗一郎くん(7歳)

ママ・久美子さんの感想
裕基は4歳のころ、自己呼吸もできず、命が危なかった事をふと思い出しました。でも、それも乗り越えて、今日はこんな楽しい日を迎えられ本当にうれしいです。



行程…2014年4月20日(日)～22日(火)
※1日目は夕方ディズニーランド近くに到着。翌日同行するボランティアスタッフと、何の乗物に乗るか等、ご家族の話を聞きながら決めます。

2日目(4月21日)

9:30

ディズニーランド到着
午前中はボランティアスタッフと一緒に園内をまわります。裕基くんとパパが一番乗りたかったのがバス・ライトイヤー。光線銃を撃つ場面では、大興奮!!



0:10

ウエスタンリバー鉄道に乗車

道を歩く人から、手を振られて、にこやかに振り返るママと裕基くん。そんなふたりを見てパパは「夢の国はやっぱり元気をもらえるね」と一言。



12:00

家族水入らずの時間

ボランティアとはここで別れ。午後からは家族での自由行動です。ランチ、イツ・ア・スモールワールドなどのアトラクションをゆったりと堪能しました。

3日目(4月22日)

9:45

浅草 雷門でヒーロー気分

人力車のえびす屋の皆さんがお出迎え。あまりの熱烈歓迎ぶりに、芸能人と勘違いした海外の観光客が、盛んにシャッターを切る一幕も。「スターになった気分」とママ。

10:00

浅草寺へお参り

手水舎でパパに手を清めてもらう裕基くん。手に水がかかった瞬間、冷たいよ!と言わんばかりに口をきゅゅと結び、足をバタバタさせて反応してくれました。



10:15

メロンパンと似顔絵のサービス

甘味処の花月堂から焼き立てメロンパンのおもてなし。その後、似顔絵専門店のカリカチュア・ジャパンから似顔絵のサービス。出来映えに思わずっこり。



11:35

風を切って街を走る!

車とも車イスとも違う乗り人力車の乗り心地はどうだったでしょう。行く先々の交差点で車夫さん達が「ヒロキー!!」と熱い声援を送って盛り上げてくれました。



15:00

お昼ご飯を食べてお別れ

お寿司屋さんでお昼です。裕基くんも茶碗蒸しを堪能。ウィッシュ・バケーションはこれで終わり。東京駅でお別れです。ひろくん、元気でまた会いましょうね。



※浅草での協力店/人力車…えびす屋、メロンパン…花月堂、似顔絵…カリカチュア・ジャパン

ウィッシュ・バケーション 参加家族インタビュー



夢の旅行は難病と闘う家族と 社会が知り合う“きっかけ”となる

ほかの心配は一切せず、家族全員の笑顔のことだけを考えて過ごす時間と場を提供するウィッシュ・バケーション。2013年7月、大阪にて開催されたウィッシュ・バケーションに参加した前田ファミリーの長女・前田瑠歌(るか)・ファヤーズちゃんは、染色体の一部が欠けている重い病気を患っています。母親の美由紀さんに実際に旅行に参加した感想や、難病と闘う子どもとその家族がどのような状況で、どのような支援を必要としているのか、お話を伺いました。

父・ハサン・ファヤーズ

母・前田美由紀

姉・前田瑠歌・ファヤーズ (13番染色体部分欠損・先天性両側声帯まひ他)

弟・前田遥乃・ファヤーズ

父親のハサンさんはモルジブ出身。お2人はモルジブで出会い、国際結婚しました。2013年夏、ウィッシュ・バケーションに参加し、大阪ユニバーサルスタジオ・ジャパンやカリスマ美容室を訪れました。

たくさんの機会を設けていただいて
気持ちが柔らかくなりました。

TOOTH FAIRY (以下T) ウィッシュ・バケーションに参加した感想を教えてください。

母 家族で遠出が初めてで、夢のような時間でした。瑠歌はバケーション中はしゃぎっぱなしで旅行中に体調を崩さないかひやひやしていましたが、今思うと楽しかったんでしょうね。

T 参加して家族に変化はありましたか？

母 特に父親のハサンにとってすごく刺激になったみたいです。このような活動をしている人を知って、少しずつ変わってきました。最近では私の体調が辛い時に、子どもの世話を全部してくれるようになりました。

T 人との関わりは人をハッピーにさせるんだな、と、自然に気付いたんでしょうね。

母 今までハサンは瑠歌に対する他人からの何気ない視線に、過剰に反応するようなところがありました。それがウィッシュ・バケーションに参加して、気持ちが柔らかくなりました。この間も、近所の広場で遊んでいた子どもたちと瑠歌たちをなんの抵抗もなく遊ばせ、その子どもたちのお父さんに瑠歌のことを話したのです。以前は絶対にそんなことはしなかったと思います。この変化はみなさんのおかげ。ありがたいことです。

子どもにとってどうしてあげるの
がいいのか毎日のように悩んでいます。

T 最近1番嬉しかったことはなんですか？

母 いつも遊んでいる公園で、小学生のグループが壁をつくらず自然に、瑠歌たちと一緒にかくれんぼをしてくれたことが嬉しかったです。

T では今1番悩んでいることはありますか？

母 来年瑠歌が就学を控えているので、普通校に通うか特別支援学校に通うか…。簡単に答えを出せず、どうしてあげるのがいいのか毎日悩んでいます。

瑠歌は「他の子と比べて私なんて」って思うような子どもじゃ



ないのに、周囲に「普通校に入れて彼女が傷ついたらどうするの？」なんて言われて葛藤してしまうことも多いです。その上、病状の変化や毎日の医療行為で私自身も参ってしまい、気力がなくなると何もできず一人で泣いてしまいます。

誰かに会って話を聞いて
もらうだけでも嬉しい。

T どのようなサポートがあると嬉しいですか？

母 誰かに会って話を聞いてもらうだけでも嬉しいです。それと私が落ち込んでいる時、少しでもいいので子どもたちを外に連れ出してほしいです。訪問看護では室内でしか子どもの世話をしてもらうことはできません。その上、兄弟児の世話はできないという制約があることも多いので、そういったサポートがあると嬉しいです。

T 最後に、瑠歌ちゃんについてお母さんが思うことを教えてください

母 この子の才能を伸ばす選択肢を狭めず、より多くの選択肢を用意してあげたいです。

瑠歌自身も周りもなにかをはっきり決めることはできないし試行錯誤ですが、だからこそチャレンジしたいと思っています。



TOOTH FAIRYとして できること

瑠歌ちゃんの歌や踊りに笑顔が溢れ、お母さんの美由紀さんも終始リラックスした雰囲気の中行われたインタビュー。「自分は子どもの病気のことを日常のこととして話していても、友達など他の人には重く受け取られてしまって、相談したくてもなかなかできない」と話す美由紀さんの姿が印象的でした。

TOOTH FAIRYでは孤立しがちな難病の子どもとその家族を応援していきます。(聞き手TOOTH FAIRYスタッフ小村)

プロジェクトパートナー

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

所在地・東京都中央区入船2-9-10五條ビル3F-B

事業内容・東京ディズニーリゾートやユニバーサルスタジオ・ジャパン、浅草、美容院など、普段は出来ない夢の家族旅行(ウィッシュバケーション)を提供する。

小児糖尿病 夢のキャンプ

TOOTH FAIRYは、昨年度より全国の1型糖尿病の子どもたちに夢のキャンプをプレゼントしています。年齢は5歳から高校生まで。同じ病気と闘う友達を作り、自分の病気について勉強をします。



来年も来たくなる 勉強も遊びも友だちも 魅力いっぱいのキャンプ



1型糖尿病ってどんな病気？

1型糖尿病は膵臓のβ細胞が破壊され、インスリンが分泌されなくなって起こる病気です。インスリンは血糖値を下げる唯一のホルモンで、血液中のブドウ糖を肝臓や筋肉に運び、蓄える役割もあります。1型糖尿病は自分の体内でインスリンが作れないため、血糖値は上昇し、エネルギーとして使われません。その結果、のどの渇き、おねしょ、急な体重減少など様々な症状が起こり、生涯にわたり、インスリン注射が必須となります。しかし、治療についての正しい知識を持ち、1日3~4回、血糖自己測定とインスリン注射をすれば、健康な人と変わらない生活が送れます。生後すぐの0歳でも発症しますが、ピークは10歳前後。罹患者は10万人当たり1.5~2人程度です。少数のため周囲に理解されにくく、相談できる仲間がいないことなどが悩みです。



小児1型糖尿病は発症率が低いため、発症した子どもどうしが遊んだり、先輩の声を聞く機会がほとんどありません。また、病気のことが気になって思いっきり遊べないといった悩みもあります。

そこで小児糖尿病キャンプでは、同じ病気の友達をつくること、自分の病気を正しく理解すること、症状のコントロール方法を学ぶことを目的に掲げています。キャンプ中、仲間に触発されて初めて自己注射ができるようになる子や、親友を得る子も大勢います。

写真は香川県で開催された「第32回せとっ子の会スプリングキャンプ」の様子。TOOTH FAIRYのスタッフも参加してきました。

ハイライトは糖尿病教室でのアンパンマン劇場。医師がアンパンマンとバイキンマンに扮し、インスリンと血糖値の関係をわかりやすく教えてくれました。

レクリエーションでは手打ちうどん作りを体験。うどん県と言われる香川県でも、自宅で手打ちうどんを打つことは少ないそうで、みんな興味津々です。早速、生地をこねる係、具材を切る係、かまどに火をくべる係に分かれ、調理スタート。

「うどんをこねるのは力があるなー!」、「いつも家でお手伝いしているから大丈夫」、「かまどの煙が目にしみる!」と、みんな興奮気味。ボランティアスタッフに手伝ってもらいながら



約1時間後、讃岐の郷土料理、しっぽくうどんの完成です。自分で作った料理の味は格別。

「おいしい!」と、べろりとたいらげていました。

ほかにキャンドル作りやウォークラリーなども楽しみ、充実したキャンプになりました。

糖尿病の子どもと 口腔ケアの重要性

糖尿病はきちんと血糖値をコントロールしていれば、怖い病気ではありません。しかし、近年の研究によって、歯周病が血糖コントロールに及ぼす影響が明らかになり、歯周病は、糖尿病の第6番目の合併症といわれるようになりました。糖尿病を持つ子どもたちにとって、早くから口腔ケアについての正しい知識を持つことは非常に重要になってきています。本年度はTOOTH FAIRYから和歌



山県と熊本県のキャンプへ歯科医師のボランティア検診に来ていただきました。日本糖尿病協会としてお礼申し上げます。今後さらに多くのキャンプで、子どもたちに歯を磨くことの大切さと正しい磨き方などをご指導いただければと思います。歯科医師の皆様が小児糖尿病の子どもたちの健康管理に関心をもって活動していただくことは、たいへん有難いことです。

武田倬(ただ・あきら)先生/糖尿病専門医
小児糖尿病キャンプを支える、公益社団法人日本糖尿病協会の担当理事。同協会が発刊のために発行している月刊誌「糖尿病ライフさかえ」の前編集委員長。鳥取県立中央病院顧問も務める。

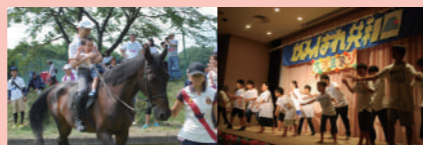


プロジェクトパートナー
公益社団法人 日本糖尿病協会
所在地・東京都千代田区麹町2-2-4 麹町セントラルビル8階
事業内容・小児糖尿病の患児とその家族を対象としたキャンプの実施。

「合言葉は友だちつくり」 がんばれ共和国

年に一度の難病児と家族のキャンプ

医療のバックアップの中でしっかりと
大自然につかり、難病や障害の子どもたちや
家族が様々な体験を楽しむ難病の子ども
のサマーキャンプ「がんばれ共和国」。
8月9日～11日まで宮城県で
「蔵王・七夕難病キャンプ」がTOOTH FAIRYの
支援事業として開催されました。
遊ぶ喜びや友だちとの触れ合いを楽しめる
年一度のサマーキャンプの魅力を、
長年キャンプの運営に携わる事務局の
福島さん・荻須さんにお話を聞きました。



事務局の福島慎吾さん(右)、荻須洋子さん(左)。

非日常的な楽しい体験や 家族の交流が大切

難病の子どもサマーキャンプ「がんばれ共和国」では、非日常的な楽しい体験やプログラムを通じた家族の交流を何よりも大切にしています。

普段の生活では車いすや医療機器が手放せない難病や障害を抱える子どもたちや家族も、この夢のキャンプではおもいっきり遊び、そして家族はリラックスした時間を過ごせます。

事務局の福島さんは、「参加者の子どもにも家族にも楽しんでもらうことが大原則です」と語ります。

ほんの一瞬の喜びが 次の一年を過ごすための力になる

比較的重度の障害をもつ参加者も多い中、アクティブなプログラムを前に、「うちの子は病気だからできない」とたじろぐ家族も少なくありません。

ところが実際に子どもたちが乗馬体験や水遊びをすると、家族の表情に喜びの色が浮かびます。ある母親は、重い医療機器をつけながら初めて馬に乗った子どもの姿をみて、「この子は一生こんなことできないと思っていた」と涙ながらに話す姿もみられました。「ほんの一瞬の喜びが次の一年を過ごすための力になると感じています」

事務局の荻須さんはキャンプに訪れた子どもたちや家族を思い出しながら、嬉しそうに話しました。

病気や障害のある子どもと 家族と歯医者さん

今回のキャンプではTOOTH FAIRYの参加歯科医師である、宮城県歯科医師会常務理事のさくら歯科・山崎猛男先生による口腔チェックも開催されました。

難病の子どもたちは車いすでの移動などによって気軽に歯医者さんに通えないことも多い上、身体の緊張で口を開けることが難しく、歯のケアが疎かになりがちです。山崎先生の検診では、口腔チェックの他にブラシを使わずに行う口腔ケアの方法など、常に子どもに接する母親たちへのアドバイスも行われ、感謝の声が多く聞かれました。

病気や障害のある子どもと 一緒に過ごすということ

最後に事務局のお二人に、TOOTH FAIRYの先生方に向けてメッセージをいただきました。

「病気や障害というと『○○病の△△ちゃん』といったふうに、どうしても症状が目が行きがちです。でもこのキャンプに参加するとそういう垣根が薄れてきて、病気や障害があっても同じ人間だと再確認できるのではないかと思います。TOOTH FAIRYの先生方にはご支援だけでなく、ボランティアにまで参加していただき、本当に感謝しております。これからも応援よろしくお願ひします」

「がんばれ共和国」
キャンプに参加して
宮城県歯科医師会常務理事
さくら歯科 山崎猛男

子どもたちの口腔内を、実際拝見してみると、当初考えていたより虫歯(むし歯)は比較的少なく、むしろ歯肉炎症状を呈する子供達が多く認められました。歯科治療に関しては大学などの高次医療機関に通院経験のある子がいる一方で、障害児を受け入れる「かかりつけ歯科診療所」の情報も少なく、ご家族の不安も伝わってきました。考えさせられる課題も頂き、また機会があれば参加したいと思っております。



プロジェクトパートナー
認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク
所在地…東京都文京区本郷1-15-4
文京尚学ビル
事業内容…難病の子どもを持つ家族を対象とした、サマーキャンプの開催

日本初の小児がん専門治療施設 チャイルド・ケモ・ハウスが完成!

子どもたちや家族からのメッセージ



チャイルド・ケモ・ハウスは2013年春に竣工し、年末には待ちに待ったオープンとなりました。並行して短期滞在型の「夏のお楽しみ合宿 チャイケモスクール」、「クリスマスイベント チャイケモからの贈り物」などのお楽しみイベントも実施しました。現在は「週末お泊りプログラム」と題して、マジシャンの登場や、アロママッサージなどを実施しながら、何より大切な家族が家族らしくゆったりと過ごすことのできるプログラムを実施しています。ハウスオープンから現在までに18組の家族がハウスを利用。参加した小児がんの子どもとその家族からいただいたご感想の一部をご紹介します。

2013年度のチャイケモイベントへ 参加した子どもと家族からの喜びの声

患児の感想(8歳女児)
・プレイルームで友だちと遊んだのが楽しかったです。
・お部屋が気に入った。

きょうだいの感想(11歳女児)
・大きいかべに大きい花火が上がる所がすごくきれいでした。
・おふろがとってもきれいでした。
・今日帰らなきゃいけないのが、とてもさみしいです。

患児母の感想(40歳代)
同じ経験をした人達と同じ空間で生活出来、沢山の事を学びました。この様な環境で家族と治療する事が出来る様になれば、色々なストレスから解放されると思い、素晴らしいと思います。この様な施設が増え、多くのご家族に利用していただける事を望みます。

プロジェクトパートナー
公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金
所在地…兵庫県神戸市中央区港町8-5-3
事業内容…小児がん専門治療施設の運営、小児がんに関わる医療者・ボランティアの人材育成、小児がんの子どもと家族のQOLの向上に関わる活動



(左) 笹川陽平 (右) 大住力

対談

「ひとりじゃないよ!」を届けよう

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を 代表理事 **大住力** × 公益財団法人 日本財団 会長 **笹川陽平** 対談

TOOTH FAIRY プロジェクトのパートナーである、'公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を (通称Hope & Wish、以下H&W)' は、重い病気や障害を持つ子どもとその家族に対し、家族全員を夢の旅行に招待する活動を実施しています。20年間サラリーマンとして勤めたオリエンタルランド(東京ディズニーランドを運営)を辞め、H&Wを立ち上げた大住力さんに話を聞きました。

笹川 H&Wはどういった経緯で立ち上げられたのでしょうか?

大住 ディズニーランドで20年間一生懸命に働いて、やりがいのある仕事でしたが、立場が上がるにつれ売り上げや利益中心に考えている自分に葛藤も感じるようになっていました。そんな時、ギブ・キッズ・ザ・ワールドに出会ったんです。フロリダにあるギブ・キッズ・ザ・ワールドは、2000人のボランティアに支えられ、20万平方メートルの土地に建つ滞在型の施設。難病を患う子どもと家族全員を世界中から無料で招待し、近くにあるディズニーランドなどで1週間過ごすという夢のような活動です。難病のほとんどの子どもたちの一番行きたいところがディズニーランドなんだそうです。そんなに愛されている職場に誇りを持つと同時に、こうした活動が進んでいない日本の現状に、もどかしさを感じるようになっていったんです。

笹川 現在の活動について教えてください。

大住 全国から難病の子どもとその家族全員を無料でディズニーランドなどにご招待する、2泊3日のウィッシュ・バケーションを中心に活動を進めています。ディズニーランドだけではなく、普段はなかなか行けないヘアサロンで髪を切って家族写真を撮ったり、浅草で人力車に乗ったり、そうした人との触れ合いが喜ばれています。

TOOTH FAIRYのご協力も頂いて、これまでに84家族をご招待させて頂いています。

ギブ・キッズ・ザ・ワールドのような施設を持つのが夢ですが、現在はホテルを使い、多くのボランティアの力を借りて進めています。

笹川 家族全員をご招待するというのはいいですね。難病の子どもたちを支えている家族、とくに母親は、24時間気の抜けない

看護生活ですから、ボランティアの力で少しでもレスパイトを提供する機会を差し上げることが大切ですね。

大住 ええ。小児難病というのは、家族も世間から孤立していて、精神的にも肉体的にもぎりぎり頑張っている方が多いので、ご家族全員を応援できるような体制を整えています。

笹川 小児医療の向上で、助かる命が増えてきたことは素晴らしいことですが、彼らの生活を支える仕組みが非常に脆弱です。そうした厳しい生活の中で、なんで自分たちだけが、という気持ちになり孤立してしまう家族に、大住さんたちの活動はとても大きな意味を持っていますね。ただ、ディズニーランドで遊ぶだけではなく、そこにはボランティアや、美容師さんや人力車のお兄さんたちとの触れ合いがある。自分たちのことを応援してくれる人がいると思えるだけで人は力を発揮できると思います。

大住 残念ながら僕の古巣のディズニーランドより、ヘアサロンの方が人気があるかもしれないですね。普段はお化粧品をする余裕もないお母さんが、ばつちりとおしゃれをすると、「ママきれいだね!」なんて子どもに言われて、喜んだり、泣いちゃったり。

それを見ていたヘアサロンのスタッフもみんな泣いてしまって。自分たちの仕事がかんなに人を喜ばせることができるんだ、って気づいたのでしょね。

笹川 H&Wの活動は、子どもたちとの死別が避けて通れないと思います。どのように向き合っていますか?

大住 覚悟していたことですが、ウィッシュ・バケーションに参加してくれた子が亡くなったときは、自分でもびっくりするぐらい動揺しました。葬儀に何うとランドセルが飾られていて、バケーションの時の元気な笑顔を思い出し、亡くなるということはこういうことかと思いました。何もできない自分に落ち込みました。でもこういう風に思うようにしたんです。

「お前はよくやった!よく生きた。短かったけど君はのちの役割を果たした!」って。お気の毒ですなんて言えないなって思っって向き合っています。

笹川 TOOTH FAIRYは、全国で5600を超える歯科医院から、治療で撤去した金属のご寄付をいただくという、非常にユニークなチャリティで進めています。

最後に全国の歯科医師や患者さんにメッセージをお願いします。

大住 実は、難病の子どもの支援活動に対する援助、特に私たちのようなレスパイト活動に対する資金的な援助は非常に少ないのです。TOOTH FAIRYはこうした活動に光を当ててくれた。さすが、難病児や障害児の支援も行っている歯科医師ならではの発想だと感じています。パートナーに選んでいただき心から感謝しています。

私たちの活動もそうですが、小児難病の子どもたちへの支援は始まったばかりです。

活動が広がっていくためには、資金的な援助は非常に重要です。もう一つ、こうした家族の方々の生活を多くの人が知っていただくことも大変重要だと思っています。

全国の5600を超える歯科医院のスタッフの皆さまや、そこに通われる患者の皆さまに、頑張っている子どもたちのことを知っていただき、全国各地から大きな声で「ひとりじゃないよ!」という声を上げていきたいです。





ミャンマーの今 貧困地域に暮らす子どもたちに 継続的な教育を

2011年3月、テイン・セイン政権発足後民主化に向け改革が進むミャンマー。都市部では世界各国からの活発な経済投資や政府のインフラ投資により、急速な経済成長が進んでいます。しかし、それ以外のエリアではまだまだ生活は質素で多くの課題が残っています。多民族国家ミャンマーには約7割を占めるビルマ族のほか、約135の少数民族が厳しい環境の山岳地帯を中心に住み、農村地帯では頻発する自然災害のためにこれまでも貧しい生活を余儀なくされてきました。TOOTH FAIRYでは貧困や校舎の不足から学校に通うことのできない少数民族が多く居住するエリアで、子供たちが継続的な教育を受けることができる状態を目指します。



日本の歯医者さんがミャンマーへ！

2014年2月、公募型では第2回目となるミャンマー歯科ボランティアツアーを開催しました。今回は全国から10名の歯科医師の先生にご参加いただき、寄付により建設されたTOOTH FAIRY学校を2校視察していただきました。静岡県の小山先生、兵庫県の坂口先生は昨年に続き2度目の参加です。TOOTH FAIRY学校が建つ村は電気もガスも水道もなく、医師も歯科医師もいません。このツアーでは歯科医師の先生による口腔チェックや歯磨き指導も行われました。

今回視察した学校

南シャン州タウンジー郡タンテ小中高等学校(分校)

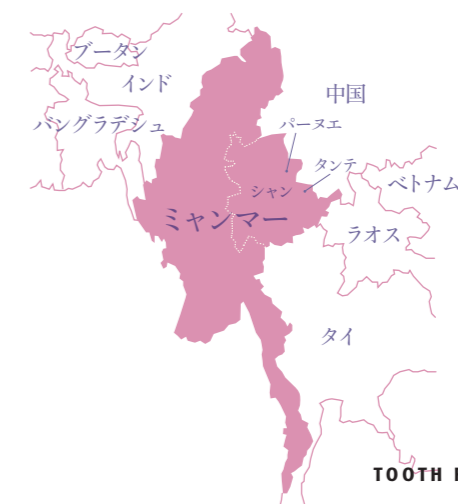
世帯数	約760世帯
人口	3850名
民族	シャン族、インダー族、バオ族、ミャンマー族、ダヌ族
宗教	仏教
産業	農業(米、にんにく、タナベと呼ばれる葉巻の葉)
生徒数	696名(Grade1~Grade11)
職員数	33名

南シャン州ニャウンシュエ郡パーヌエ小学校

世帯数	73世帯
人口	397名
民族	インダー族
宗教	仏教
産業	(米、トマト、さとうきびなど)
生徒数	52名(Grade1~Grade5)
職員数	校長1名、教員1名、主事1名(3名中2名が教育省派遣教職員)

ツアーのスケジュール

2月5日	東京→ヤンゴン
2月6日	ヤンゴン→ヘーホー空港(シャン州への玄関口) ヘーホー空港→タンテ小中高等学校 (歯科検診、歯科交流を実施)
2月7日	ボートでパーヌエ小学校 (歯科検診、歯科交流を実施)
2月8日	ヘーホー空港→ヤンゴン (市内観光)ヤンゴン→東京
2月9日	早朝東京到着。おつかれさまでした〜♪





池澤高志先生

医療法人 池澤歯科クリニック
大阪府豊中市上野東2-1-1
上野一番館2F

以前からボランティア活動に興味があったのと、未開の地の子どもの歯や歯列がどんなものか見てみたかったので、このたび応募しました。全国から集まる同志と知り合えるのも魅力の一つでした。

実際参加して思ったことは、自分の祖国、自分の境遇がいかに恵まれているかということでした。しかし貧しいなりに皆が平和に幸せに暮らしているように見受けられました。何百人もの小中学生の生徒たちによる歓迎セレモニーにはとても感動しました。口腔内は歯科医療の手が届かず、多発性う蝕により悲惨な状態でした。この国に足りないのは、歯ブラシと歯科予防教育だと強く感じました。このツアーを通じて困っている方を援助するという医療の本質を実感することができました。

全国から集まったツアー参加メンバー



熊川貴昭先生

みさき歯科医院
東京都渋谷区渋谷1-7-14

日本では当たり前が、当たり前でない世界に行ったとき、そこで感じたものは、歯科医師になりたての頃の想い。「目の前のこの子をなんとかしてあげよう」それだけでした。毎日この想いで診察にあたっているか自分を見つめ直す良い機会となりました。在るものへの感謝を思い出させてくれた世界。サポートして下さったスタッフさんに感謝です。



前田龍一先生

前田歯科医院
兵庫県神戸市北区山田町箕谷20-1

今年2月、TOOTH FAIRYの歯科ボランティアに参加し、早くも4か月を経た。現地では、いかに私がミャンマーのことを知らずに赴いたかを痛感した。それまでにマスコミ、書籍などで得ていたものと、生に肌で感じたものとの差は余りにも大きかった。また、この4か月の間にも日本を含めた外国からの進出によるバブルが急激に進んでいると聞く。経済的に豊かになるのと同時に、あの豊かな心を持ったミャンマーの人々が全てに充足された生活を営めるように望みたい。そのために我々日本の歯科医師がなうことは沢山あるように思う。ミャンマーと日本の交流は随分以前から密接に続いているようで、要人のなかにも知日派が多くいらっしゃる。生活に寄り添う歯科医療を通して、別の場面で交流が豊かな生活の一助になればと希求する。



瀬戸和仁先生

瀬戸歯科医院
千葉県木更津市朝日2-1-30

TOOTH FAIRYに寄せられた寄付金で建設した学校では、子どもたちばかりでなく村人までもが集まり、限られた時間の中で治療をする事が出来ました。教育を受ける事の喜びと希望に満ち溢れた子どもたちの笑顔が大変印象的でした。このような事が両国のより良い関係のかけ橋となってくれたらと願っております。



雀部貴志先生

私は普段、大病院の小児歯科において、子どもの歯科診療に携わっています。ミャンマーは日本と国情がまるで違いますが、子どもたちは皆、明るく活き活きと学校生活を送っています。その笑顔と眼差しには、私の方が元気をもらえる思いでした。そんな彼らの未来を支えるうえで、少しでも力になれたことは、小児歯科医として大きな喜びです。



上條達央先生

上條歯科医院
東京都千代田区岩本町3-7-16 マルメル2F

純真、素朴な村人たちは普段受けられない歯科医療を熱烈に歓迎してくれました。日本では当たり前の歯科診療が、どれほど貴重なものなのかをあらためて認識しました。まさかこの年で子どもたちとサッカーをして、芝生の上で駆け廻ることになるとは...。プライスレスな経験満載のこのツアーには、日本の歯科医が数多く参加することを望みます。TOOTH FAIRYスタッフの皆様、素晴らしい旅どうもありがとうございました。



小山和彦先生

小山歯科医院
静岡県浜松市中区佐鳴台1-12-8

昨年、訪れた時はこの国の全ての情報が不足していたため躊躇うことも多々あり、とりわけ「歯科分野」の知識の低さは国家間の大差を感じました。今回は2度目の訪問ということもあり1年の成長に期待しての再会でした。前回訪れた学校では若干ではあるものの口腔衛生への理解が高まり各人のモチベーションにも変化が見られ非常に喜ばしかったです。今回初の訪問先は昨年同様極めてデンタルIQが低いものでした。やはりローマは1日してならず...ミャンマーは更に根気よく辛抱強く口腔衛生改善を長きに渡って呼び掛ける必要性を感じ、草の根的な活動の重要性を重んじていくことが我々歯科医師の任務であると痛感しました。



小泉(高見)文先生

横浜船員保険病院 歯科口腔外科
神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1

日本での歯科医としての在り方を見直す貴重な体験となりました。ミャンマーの人々の勤勉さ、子どもたちの笑顔が忘れられません。



大野眞吾先生

大野歯科医院
大阪府八尾市北本町2-4-9

今まで、「只のボランティア」と軽く考えていました。本当に日本で集められた寄付が役に立ちどの様に使われているのか分からなかったのですが、実際にミャンマーで建てられた校舎を見て「感動」の一言です。そして、心を込めて出迎えてくれたミャンマーの人たちに「感謝」です。

坂口智計先生

とも歯科医院
兵庫県神戸市須磨区飛松町3-1-3

昨年に続き二度目の参加です。各学校の歓迎ぶりは通り一片のものではなく、心からのおもてなしに溢れていました。日本のことをもっと知ってもらい、いい関係を続けていきたいです。



スクールプロジェクト





治療で役目を終えた金属が 子どもたちの夢に変わりました！ 全国から届いた 歯医者さんと患者さんへのありがとうの声

久しぶりに乗馬にチャレンジしました。馬に乗って高いところから見える景色は最高でした。一緒に乗って支えて下さった方々、私とキャンプ中過ごして下さったボランティアの方々ありがとうございました。また来年もチャレンジしたいです。

(宮城県・がんばれ共和国蔵王セタキャンプに参加したほなさんより)



今回参加したイベントは、全国の歯医者さんからの寄付で開催されていることを、初めて知りました。お陰様で、楽しいゲーム、リース作り、ペットボトルロケット、おいしい食事会、ナイトハイクetcたくさん経験させてもらい感謝でいっぱいです。これからも前向きに明るく元気に生きることを、また確信して、頑張ることができます。本当にありがとうございます。

(秋田県・小児糖尿病の子どものキャンプに参加したあらいぐまんさんより)

TOOTH FAIRYを支えてくださった企業・団体の皆さま

ラッフルキャンペーンでの商品の提供や、歯ブラシや歯みがき粉などのご寄付、現金でのご寄付など、今年もたくさんの企業・団体の皆さまにご支援いただきました。ありがとうございました。

サンスター株式会社

歯の妖精「TOOTH FAIRY」の活動は、歯科領域の事業に取り組む当社にとって、大変意義のある社会貢献活動です。歯科治療で役目を終えた金属が、アジアの子ども達の教育に役立てられる、というアイデアがとてもすばらしく、すでに10校もの学校がミャンマーで建設されたことに感服しております。当社としましても、アジアの子ども達への口腔保健啓発活動に微力ながら協力してまいります。

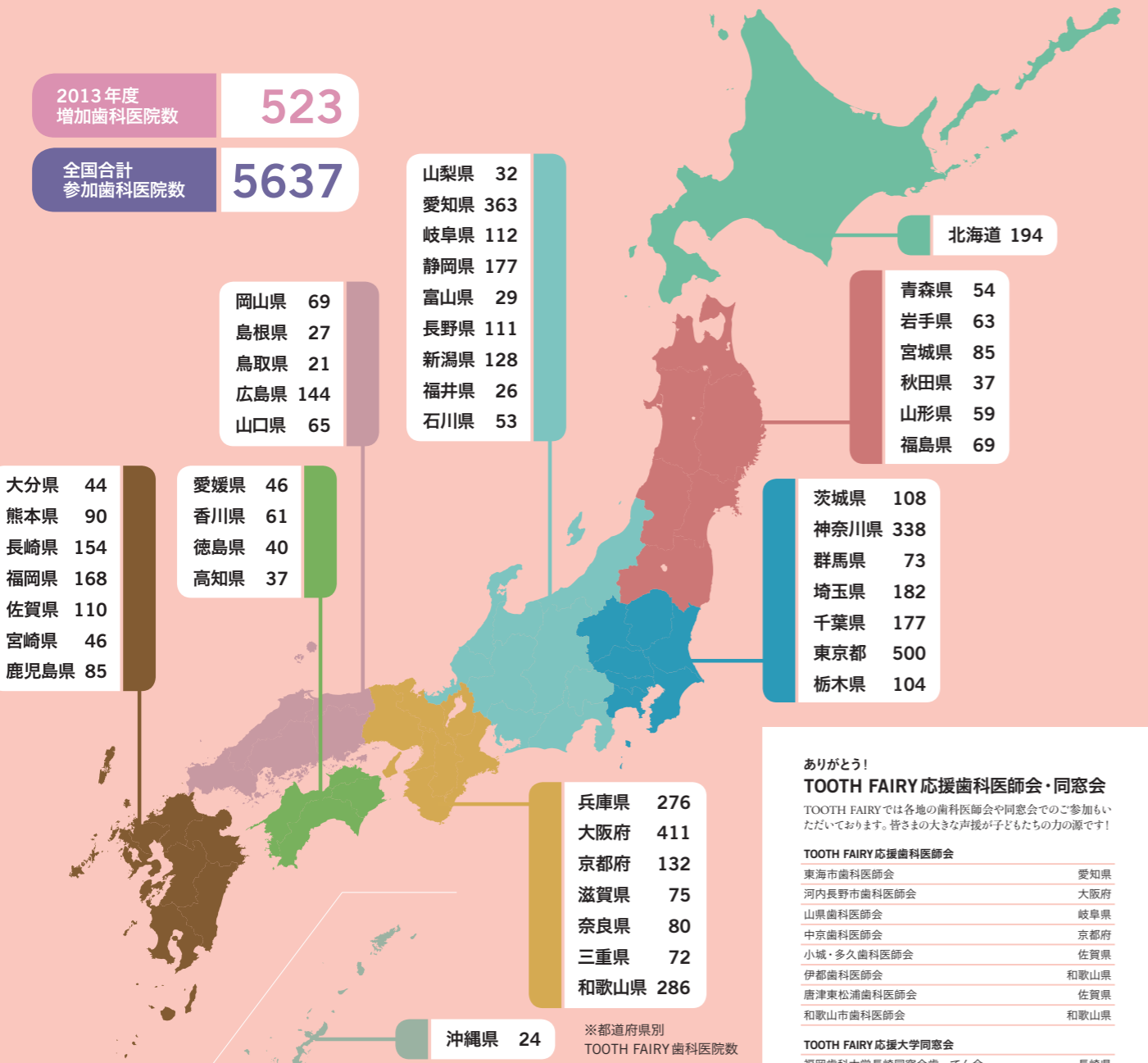


ラッフルキャンペーンとは日本語で「慈善福引」と訳される「ラッフル」。欧米では広く親しまれている寄付集めの方法です。寄付いただいた方にラッフルチケットをお渡しし、プロジェクトに賛同する企業・団体などから無償でご提供いただいた景品の抽選を楽しむものです。2013年12月～2014年1月15日までの期間に金属をご寄付いただいた歯科医院様の中から抽選で、企業や団体からご提供いただいた景品をプレゼントさせていただきました。

<p>アサヒ飲料株式会社</p> 	<p>株式会社伊藤園</p> 	<p>株式会社ウィルアンドデンターフェイス</p>  <p>http://www.denf.co.jp</p>
<p>株式会社 JTB コーポレートセールス</p> 	<p>ダイドードリンコ株式会社</p> 	<p>デンタルプロ株式会社</p> 
<p>特定非営利活動法人 POIC® (専門の口腔感染症予防) 研究会</p>  <p>新しい医療連携をめざす 特定非営利活動法人 POIC®研究会</p>	<p>ありがとうございました</p> 	

数字で見る TOOTH FAIRY

2009年に活動を開始し、5周年を迎えたTOOTH FAIRY。北は北海道から南は沖縄まで、TOOTH FAIRYは日本中の歯医者さん、患者さんに支えられ、これまでに5,600以上の歯科医院の皆様にご支援いただいております。2013年度は新たに523のTOOTH FAIRY 歯科医院が誕生しました。支援の輪は日本中に広がっています！

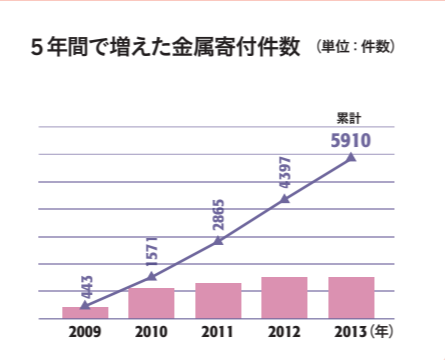
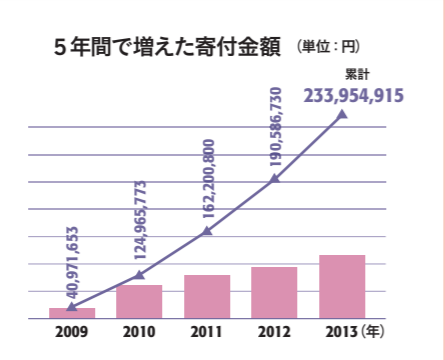
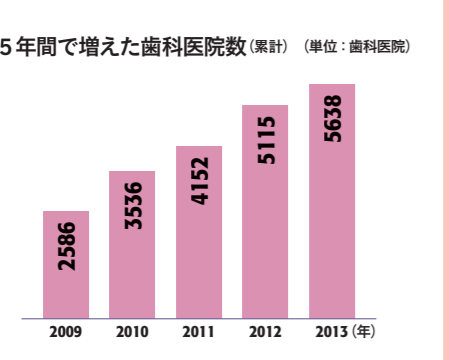


ありがとう！
TOOTH FAIRY 応援歯科医師会・同窓会
TOOTH FAIRYでは各地の歯科医師会や同窓会でのご参加もいただいております。皆さまの大きな声援が子どもたちの力の源です！

東海市歯科医師会	愛知県
河内長野市歯科医師会	大阪府
山梨県歯科医師会	岐阜県
中京歯科医師会	京都府
小坂・多久歯科医師会	佐賀県
伊都歯科医師会	和歌山県
唐津東松浦歯科医師会	佐賀県
和歌山市歯科医師会	和歌山県

福岡歯科大学長崎同窓会歯ってん会	長崎県
------------------	-----

※TOOTH FAIRY 応援歯科医師会・大学同窓会…
歯科医師会全体でTOOTH FAIRYにご参加いただいている団体。



寄付金属リサイクル換金結果

第12回換金	寄付金額 ※1 85,402,993 円	寄付件数合計 707 件 参加歯科医院…656件 個人…51件	総重量 ※2 261.3 kg	回収期間 2013年1月28日 ～2013年7月24日
第13回換金	寄付金額 ※1 50,502,218 円	寄付件数合計 354 件 参加歯科医院…327件 個人…27件	総重量 ※2 160.9 kg	回収期間 2013年7月25日 ～2013年11月22日
第14回換金	寄付金額 ※1 91,127,655 円	寄付件数合計 768 件 参加歯科医院…749件 個人…19件	総重量 ※2 251.3 kg	回収期間 2013年11月23日 ～2014年2月10日

※1…寄付金額=売却金額-分析手数料-預り消費税 ※2…金属の総重量には、容器の重量が含まれています。また内容物の中にも換金できる有価金属以外の物質も含まれています。

収支報告 (自2013年4月1日 至2014年3月31日)

I. 収入の部		II. 支出の部	
歯科撤去金属売却収入 ※1	232,605,254	ミャンマー学校建設	0
現金寄付金収入 ※2	1,349,661	チャイルド・ケモ・サポート基金	50,000,000
当期収入合計	233,954,915	難病のこども支援全国ネットワーク	4,680,000
前期繰越収支差額	218,953,956	難病の子どもとその家族へ夢を	4,100,000
収入の部合計	452,908,871	日本糖尿病協会	4,840,000
		そらぶちキッズキャンプ	2,500,000
		過年度修正 ※3	-25,000,000
		事業費支出合計	41,120,000
		換金手数料支出 ※4	5,572,388
		当期支出合計	46,692,388
		当期収支差額	187,262,527
		次期繰越額	406,216,483

※1…売却金額から預かり消費税相当額を引いた額
※2…TOOTH FAIRY 参加歯科医院や個人からの現金寄付
※3…2010年度、小児ホスピスの設立事業のために(一財)海のみえる森に対して25,000,000円の支援を行いました。しかし、2013年度に同法人により事業実施が困難になったため、TOOTH FAIRYの寄付金を活用した事業としては中断し、既支出額25,000,000円は日本財団の自主予算から振り替えました。(詳細は下記参照)
※4…金属の分析精製手数料(税込)

※3詳細
小児ホスピス「海のみえる森」プロジェクト一時中断のお知らせ
TOOTH FAIRYが神奈川県大磯町で開設に向けた準備を進めてきました小児ホスピス「海のみえる森」プロジェクトにつきまして、これまで開設に向けた調査や人材育成を進めてまいりました。しかし土地・建物提供者から利用条件の変更要望などがあり、不確定要素が多く残ることから、一旦TOOTH FAIRYの寄付金を活用して実施することを一時中断させていただくことと致しました。今後、日本財団の自主事業として継続させていただき、プロジェクトの実現の可否について調整してまいります。
本プロジェクトを応援くださった皆様には大変申し訳ありませんが、より適切な事業を目指してまいりますので何卒ご理解のほどお願い申し上げます。
なお、これまでの準備に支出した経費は日本財団の自主予算で負担し、寄付金からの支出は致しません。

これからのTOOTH FAIRY

チャレンジキッズプロジェクト



1. 日常の支援

難病や重い障害を持った子どもたちに対して日常的に利用可能なレスパイトサービスを提供する拠点の整備や、自宅へ訪問型のレスパイト活動を支援していきます。看護師、プレーヤー、音楽療法士などからなるチームが家庭を訪問し家族にひと時の休憩を与えたり、子どもたちの生活に遊びや安らぎを添えていきます。



2. 非日常の支援

非日常の体験を提供する小児ホスピス・小児レスパイトと呼ばれる施設は難病や重い障害をもった子どもたちが普通の生活では味わえない素敵な環境の中で友達を作ったり、大自然を満喫したりできる特別な場所です。生きる力を養っていくことができるもう一つの居場所の整備を支援していきます。またキャンプやディズニーランドなど、なかなか外出できない子どもたちのために夢の家族旅行をプレゼントします。

スクールプロジェクト

ミャンマーの子どもたちに学校を！今年はいらワジ地区に8校を建設

長く続いた軍事政権から民主化に向け歩みだしたミャンマーは、今も世界の最貧国のひとつ。貧困家庭の子どもたちは、高等教育を受けるチャンスがなく、読み書き計算ができない結果、貧困の連鎖が続いてしまうことが大きな課題です。ヤンゴンの南西部「いらワジ地区」は、アジアの穀倉と呼ばれる農村地帯で、第二次大戦後、食糧不足に苦しんだ日本に多くのお米を送ってくれたところでもあります。しかし、サイクロン被害も頻発し、生活は非常に厳しく、進学率も他と比べ低いのが現状です。スクールプロジェクトでは、ここミャンマーいらワジ地区の子どもたちの夢をかなえていきます。



スタッフからのご挨拶



東京都出身です。
趣味はサーフィンです！

チームリーダー

長谷川隆治 はせがわ・りゅうじ

TOOTH FAIRYプロジェクトが始動した際、日本歯科医師会の大久保会長から「資金だけでなく、歯科医師の技術でも貢献したい」というありがたいお話を頂戴しました。それから5年、日本有数の資金規模のチャリティに育てていただきました。また、難病児のキャンプや、ミャンマーで歯科医師による口腔ケアも行われ、物心両面を備えた事業となりました。これまでのご縁に心から感謝し、次の5年に向けて走り出します。



佐賀県出身です。
趣味は学生時代からつづけている写真です。

山崎美加 やまさき・みか

TOOTH FAIRYプロジェクトが始まって5周年を迎えました。私の5年間はTOOTH FAIRYと共に歩んできた5年間です。この活動報告書を作りながら色々な思いが溢れてきました。全国の歯科医師の先生方との出会い、支援をしている団体担当者の方の熱い思い、子どもたちの輝く笑顔、一つ一つ大切な思い出です。皆様の支援があってこそそのTOOTH FAIRYです。これからの5年間でまた応援よろしくをお願いします！



鹿児島県出身です。
おいしいごはんが大好きです。

小村悠子 こむら・ゆうこ

2009年6月にプロジェクトがスタートしてから丸5年。今までに寄せられた金属の重さは、なんと2トン以上となりました。その一つ一つに込められた歯科医師の皆様や患者様のあたたかい想いや社会貢献へのお気持ちに、日々感謝しております。改めてこの5年の感謝を申し上げるとともに、末永く皆様に愛されるTOOTH FAIRYであるよう、スタッフ一同努めてまいります。新しい年月もよろしくお願い致します。



日本財団 歯の妖精 TOOTH FAIRY
〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2
TEL 0120-24-2471 (平日9:00~17:00)
Mail cc@ps.nippon-foundation.or.jp



「いいね!」を押して
TOOTH FAIRYを応援ください!
<https://www.facebook.com/ToothFairy.fan>